

第3講座の講師は
清渓セミナーの顧問でもある
福岡政行氏（東北福祉大学特任教授）
「2019年統一地方選、浮かび上がる課題」

福岡政行教授は、その長い政治学研究の傍ら、選挙予測のパイオニアとしてTV出演、あるいは政界との太いパイプで政局を語るの得意とされた人物です。

今回も、社会経済の全体状況、政局の展望をまず説明し、その後の政治的な課題を述べられました。非自民の政権作りに主眼を置いた分析でした。

また、「反原発」の意識と行動をとられており、小泉元総理の発言にも関心が深かったのですが、故菅原文太さんや俳優に吉永小百合さんの行動に近くで見続けた見地からの説明でした。

地方には人口減少が迫る。地方自治体は取り組みの視点を変える必要がある。とりわけ、子ども食堂、補習塾、さらには勉強のための場への関心を述べされました。そうした中で、議員はどのようにあるべきか、その点に重点を置いた活動を求められました。

＜私の考え方＞

福岡政行教授は、「地方議員は御用聞き、そしてその先頭に立って地域を守る！」とされています。

自分流に解釈すると、地方議員は理論を振り回すことやメディアの論調に沿って動くのではなく、あくまで自分で歩き回って、自分の目や耳で住民の動向をつかめととらえました。その住民と現場で議論し、意見交流を行いなさいとも解しました。

思うに、新しい環境づくりが必要とされているならば、そこに議員が率先してかかわり、手をかけていくべきもの解されました。

現実は、多くの議員が町内会や商店街、あるいは別種では消防団や青年会議所にかかわっています。議員になってから、あるいは議員を目指にして以降、それに参加するケースを目にします。元来は、こうした社会活動に励み、その中で認知された場合に、議員候補者になっていたのですが、それははるか以前（私は初当選した当時までは、実にその通りでした）の牧歌的な時代でした。今は、議

員になるのが先で、後から活動がついてくるのは時代の流れとの認識が正しのでしょう。

また、福岡政行教授は、政治家、議員に「とっさの判断力」を求められました。政治家は、高度の知識や博識を前提とするのではなく、限られた情報の中で他に先行する判断をし、行動するべきものでしょう。相手の行政が受け入れるかどうかは別として、自分が得た情報、判断した内容を行政や住民に提供するのが議員の役割ではないか、そのように考える次第です。